



27日夕の歓迎レセプションで披露された伝統の阿波踊り

第52回結核予防全国大会を顧みて



結核予防会
徳島県支部理事兼事務局長
関口良文

平成13年3月27・28日の2日間、全国各地から延べ約4,600人のご出席をいただき、徳島市で第52回結核予防全国大会が開催されました。

この全国大会は、21世紀初めての大会であり、平成11年7月に出示された「結核緊急事態宣言」から1年半が経過した今なお結核が増加している現状の中、現行結核予防法施行50周年の年に開催される大変意義深いものでありました。

大会1日目の午前中は阿波観光ホテルにおいて結核予防会全国支部長会議と全国結核予防婦人団体連絡協議会理事会・総会が開催されました。

全国支部長会議では、一昨年厚生大臣より「結核緊急事態宣言」が出された以後も、引き続き新登録患者が増加している現状の中で「結核問題と本会事業」として今後の対応・対策について討議しました。最初に、結核研究所森所長から「最近の結核問題と対策の動向」と題した説明があり、世界での結核患者の動向、WHOを中心とした「ストップ結核運動」の状況、日本での動向、結核緊急事態調査、地域結核対策の策定の必要性などの説明がありました。北海道支部、鳥取県支部、京都府支部などから活動状況、問題点等の報告があり、活発な議論が交わされました。次に、岡山県支部の守谷先生から肺がん検診の取組状況、有効性の評価及びこれからの肺がん検診などの説明があり、これからの肺がん検診には、らせんCTが必要ではあるが、

すべての支部に今すぐに整備することは困難であることから、従来の検診の中で精度管理に努めると共に結核予防会本部・支部が結束して積極的に協業化を行い、肺がん検診のさらなる飛躍を期して行くべきであると結ばれました。次に、結核予防会の佐藤事業部長から「健康日本21準備委員会」、また京都府支部の相津常務理事からは「協業化・情報処理委員会」の中間報告があり、両委員会とも大きな役割を担っていることから、21世紀を迎え、結核予防会本部・支部がこれからどのように事業を展開していくべきか、引き続き活発な議論を展開し、来年の全国大会の支部長会議に最終報告をまとめることになりました。

午後からは、結核対策を推進する立場の関係者による第1分科会が阿波観光ホテルで開催される一方、アスティとくしまでは婦人会など多くの一般参加者による第2分科会が開催されました。

第1分科会は、「21世紀の結核対策への提言」をテーマとして、座長に結核研究所石川副所長、助言者に厚生労働省健康局中谷結核感染症課長と結核予防会第一健康相談所増山診療部長、そして5人の演者によるシンポジウムが行われました。「徳島県の結核の現状と課題」「患者発見における課題」「結核の危機管理」「医療機関と保健所との連携の試み」「新しい対策の試み」等について、保健医療の第一線での現場の取り組み事例を基にしながら熱心に討論されました。

第2分科会のテーマは「いま、この時代(とき)を」で、座長は徳島県保健福祉部健康増進課中川健康増進対策監が務めました。まず、結核予防会島尾顧問(エイズ予防財団理事長)の「若者は変わった 結核も変わった」、結核研究所森所長の「世界の結核」と題した講演があり、引き続き、婦人会並びに保健婦の方々がミュージカル劇団の助けを得て、第2分科会始まって以来のミュージカル「いま、この時代(とき)を」を熱演されました。このミュージカルは、結核を取り巻く問題

点や結核予防の重要性を、歌や踊りを通じて会場の方々に一緒に考えていただくもので、出演者の数カ月間の練習の成果が発揮され、会場から大きな拍手をいただきました。総裁秋篠宮妃殿下には、約1時間のご臨席をいただき、大変熱心にご覧いただき盛んに拍手を送られましたことは、関係者、特に出演者にとっては感激であり、心から感謝申し上げます。



近代的なイベントホール、アスティとくしまは、ほぼ満席状態に

大会2日目のアスティとくしまでの大会式典では、大会運営委員長である圓藤徳島県知事から「21世紀最初の年に、また、現行の結核予防法が施行されて50周年という節目の年に、この第52回大会が開催できることは誠に光栄であり、この大会の成果を踏まえ関係者一丸となって結核対策のさらなる取り組みを進めてまいりたい」とご挨拶申し上げます。さらに結核予防会総裁秋篠宮妃殿下から「今日なお結核を患っている人々を思い、私たちの責務はますます重くなっていることを認識する必要があります。大会に参加された皆さまには大会の成果を地域に生かされ、より一層の結核対策推進に努められますことを期待します」とのお言葉を賜りました。引き続き秩父宮妃記念結核予防功労賞の第4回表彰では、結核予防国際功労賞1名、結核予防保健看護功労賞4名、結核予防事業功労賞7名、計12名に総裁から表彰状が送られました（なお、結核予防世界賞受賞者は11月にフランスで開催されるIUATLD世界会議の席上で表彰される予定です）。

式典に続いての議事では、全国支部長会議報告、第1・第2分科会報告の後、わが国の結核蔓延状況は、まさに再興感染症としての様相を呈しているとの認識の下に、「結核蔓延状況の変貌に即し、ハイリスクグループ対策及び保健所と医療福祉関連機関との連携強化、

結核研究所の充実及び人材育成、結核予防の普及啓発の強化、国際協力の強化」の4項目を盛り込んだ大会決議・宣言が満場一致で採択されました。また、第53回大会は、来年の3月24日世界結核デーの前後に沖縄県で開催されることになりました。

特別講演では、「青柳」主人・（学）平成調理師専門学校校長の小山裕久先生から「幸福の食卓」と題し、先生の少年期における結核感染、家族一緒での食事がなかったことなどの体験から、料理人になったいきさつ、家庭での料理の極意、日本料理のすばらしさ、簡単に作れる料理など色々なエピソードを含め、ユーモア溢れるお話をしていただきました。小山先生への大きな拍手の中、全日程をつつがなく終了できました。

現行結核予防法施行50周年の意義深い大会を盛会裡に終了することができましたことは、多くの関係団体や関係者のご支援ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。なお、21世紀を迎えて、世界的規模の結核根絶に向け、この大会が起爆剤となり、本県そして全国の皆さま方が新たな一歩を踏み出し、結核対策の推進に貢献されることを期待しております。



徳島出身の日本料理料理人、小山氏による特別講演

